



幸せな未来のために
“真っ直ぐに”

永森直人

県議会通信

Challenge spirit Vol.22
令和5年3月号 (R5.3発行)

富山県議会議員としての3期目の任期も残すところわずかとなりました。3期目の任期が始まり、1年も経たない中、国内で新型コロナウイルスの感染者が初確認されました。つまり任期中のほとんどが新型コロナウイルスとの闘いとなったわけです。議会としても、病床確保や休業要請などに伴う事業者や生活困窮世帯への経済支援、学校現場での学びの確保など、現場の声を届け、実現することができたと考えています。5月8日からは新型コロナウイルスの感染症分類の見直しがなされ、コロナとの闘いは新局面を迎えることになりましたが、他方で、これまでも社会において最大の課題とされ続けてきた人口減少・少子化の問題が改めてクローズアップされるなど、日本の社会は依然として大きな危機のもとにあると言えます。教育や子育て支援には抜本的な転換が求められており、子どもや家庭が抱える多様な困難や願いを捉え、個別に寄り添う対応が求められています。誰もが安心して暮らせる社会をつくる。誰もが持てる力や可能性を發揮できる社会をつくる。そして、誰もが、勇気と自信をもって一歩前に踏み出せる社会をつくることができれば、それは、人口減少時代における地域発展の基盤となり、射水市・富山県の無限の可能性を解き放つ原動力になると思っています。そんな社会の実現に向けて、今後とも努力を積み重ねていきますので、皆様方には、引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

〈略歴〉
生年月日/昭和50年1月20日生まれ **48**歳
住 所/射水市三ヶ
経 歴/小杉小学校、小杉中学校、高岡南高校、
東京都立大学経済学部卒業
家 族/妻、長男(大学1年)、次男(高校1年)

平成9年4月 富山県庁入庁
ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、高齢福祉課では特別養護老人ホームの待機者対策などの施策に取り組む。
平成22年9月 富山県庁退職
平成23年4月 富山県議会議員に初当選(現在3期目)
主な役職
自民党富山県連組織委員長 自民党射水市連合支部支部長
自民党小杉連合支部支部長 射水市消防団南部方面団長
保護司(射水市保護司会) 小杉まちづくり協議会会長
NPO 法人日本応急手当普及員協会顧問 (令和5年3月現在)

私たちは永森直人さんを推薦します!

- | | |
|----------------|------------|
| 三ヶ地域振興会 | 戸破地域振興会 |
| 橋下条地域振興会 | 金山地域振興会 |
| 大江地域振興会 | 黒河地域振興会 |
| 池多地域振興会 | 太閤山地域振興会 |
| 中太閤山まちづくり地域振興会 | 南太閤山地域振興会 |
| 浅井報徳地域振興会 | 櫛田地域振興会理事会 |
| 水戸田地域振興会 | ふたうち地域振興会 |
| 大門地域振興会 | 下地区地域振興会 |

-発行- 自民党富山県議会議員会 永森 直人

住 所/〒939-0306 射水市手崎363-1
TEL.0766-55-3533 FAX.0766-55-3577
E-mail nagamorinaoto.office@gmail.com

公式ブログ情報発信中!
ナガモリナオト で検索

寄り添う。

ながもりなおと 永森直人の 3期目の活動の軌跡



子ども食堂の営業許可不要・手数料廃止を実現
条件の劣悪な農地への分厚い支援を実現
疲弊する飲食店への支援の上乗せなどを実現
車椅子バスケットボールチームの練習場所確保問題に取り組む

切り拓く。

県立高校普通教室の空調整備率	H31 65% → R4 100%
県立高校のトイレ洋式化	36% → 100%

未来を支える人材育成に向けて教育環境整備を要望し実現

射水の未来を切り拓くための施策を県政へ提言

- (県議会での論戦)
(永森) 太閤山ランドのリニューアルに取り組みべき
 →(知事) 官民連携して、魅力向上策の実現に向け努力する。
(永森) 射水ベイエリアに民間活力を導入し魅力向上に取り組むべき。
 →(部長) 民間活力導入は有効であり、魅力向上や賑わい創出に努力する。
(永森) 県立大学におけるデータサイエンス教育を促進せよ
 →(部長) データサイエンスを学べる新学部の整備に取り組む。
(永森) 園芸振興など農業の成長産業化に取り組め
 →(知事) 園芸など高収益農業にチャレンジする生産者を積極的に応援する。



太閤山ランドの魅力向上に取り組んでいます
射水市フットボールセンター開設を側面支援

地域とともに...

私が目指す3つの未来



- 射水市消防団南部方面団長として地域の安全安心を守ります。
- 射水シンボルツリープロジェクトにて地元の学生の皆さんと連携してクリスマスツリーを設置しました。
- 新型コロナを乗り越え、地域の伝統や文化を再活性化させていきましょう。
- 小杉まちづくり協議会会長として小杉駅の再開発について夏野射水市長へ提言しました。

- 1 みんなにチャンスがある未来を**
 ▶ 一人ひとりが自分なりの幸せを見つけ、たくましく生き抜く力を身につけられる教育の実現を目指します。
 ▶ 教育のデジタル化を推進し、個別最適な教育の実現に取り組みます。
 ▶ 部活動の地域移行の円滑化に取り組み、少子化の中にあっても、子どもたちに多くの選択肢が与えられる環境整備に取り組みます。
 ▶ 誰もが安心して暮らせるように、通学路の安全対策、集中豪雨・豪雪対策など社会インフラの整備に取り組みます。
 ▶ コロナの影響により、経済は厳しい状況が続いています。傷んだ経済を立て直す施策の充実に取り組みます。
- 2 誰一人取り残さない安心な未来を**
 ▶ 持続可能な公共交通を構築し、誰もが自由に移動ができ、質の高い生活を実現できるように取り組みます。
 ▶ 不登校、いじめ、貧困、虐待などの生きづらさを感じる子どもたちが増えています。児童相談所の機能強化など相談体制の充実に取り組みます。
 ▶ 誰もが安心して暮らせるように、通学路の安全対策、集中豪雨・豪雪対策など社会インフラの整備に取り組みます。
 ▶ コロナの影響により、経済は厳しい状況が続いています。傷んだ経済を立て直す施策の充実に取り組みます。
- 3 美しく豊かな未来を**
 ▶ 里山、野、海。射水市の可能性は無限大。富山県と射水市をつなぎ、そのポテンシャルを開花させるために全力で取り組みます。
 ▶ 美しく豊かな農地や里山を後世につなげるために、農業の基盤整備や農家所得向上に取り組みます。
 ▶ 今、地域に空き家が増えています。空き家の利活用や循環を進めるとともに、古き良き景観を守っていきます。
 ▶ デジタルなど新しい技術を活用し、また、学生など、まちづくりの新たなプレイヤーが育つ環境をつくり、街の賑わいを取り戻します。

問 高校のあり方と教育の諸問題について

問 県立学校の適正規模は4学級以上とされており、安易に3学級の学校をつくるべきではないと考えるがどうか？

答(教育長) 全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど、特別な事情がある場合は、例外的に3学級以下であっても配置することが望ましいとされている。

問 教育のデジタル化にスピード感を持って取り組むことが急務である。教育のデジタル化を推進する専門職を民間登用するなど体制を強化する必要がある。

答(教育長) スピード感をもって教育のデジタル化に取り組むため、民間のICT関連企業経営者を始め6名の専門家にCIO・CDO補佐や推進アドバイザーとして就任いただいている。

問 教育政策は、一人ひとりのウェルビーイングの実現やイノベーションの推進、起業家マインドの醸成などと密接に関わっている。成長戦略会議において、人づくりについての議論を深めるべきである。

答(知事政策局長)

議員ご指摘のように、人づくりは、一人ひとりの個性を最大限に伸ばしていくことが求められ、学校の中だけで行うのではなく、社会全体で取り組む必要がある。人材育成は各戦略に横断的に関連する重要課題であり、個別のPTの設置も含めて、どのように議論を深めるか検討したい。

問 知事の責任のもとで、次年度から統廃合を含む高校再編を前提とした議論が始まると考えて良いのか所見を問う。

答(知事) ①県立高校と私立高校の役割や公私比率のあり方、②普通科職業科の比率のあり方、③学区のあり方等の議論を進めたい。その上で、来年度以降の検討の場や検討組織のあり方も含め、高校再編について、学校規模や基準などの基本的な方針を、慎重かつ丁寧に検討していく必要がある。

問 県立大学の新学部棟の設置の狙いや建設規模をどのように想定しているのか問う。

答(経営管理部長) 近い将来、毎年数万規模でデータサイエンス人材が不足すると予測されている。現在、県立大学では、データサイエンス力と地域・産業の現場に応用できる力を兼ね備えた人材育成を目指す方向で検討している。また、施設の建設規模については現時点では、3階から4階建てで、3,000㎡と4,000㎡の規模を想定している。

答(教育長)

調査書・内申点の利用方法について、国は、受検時の学力が十分に評価がされない場合があることを指摘しており、必要に応じて見直しするように求めている。富山県においても、入学者選抜の制度上の課題については、中学校や高校から広く意見聴取して、必要に応じて丁寧に議論していきたい。

問 学力調査と調査書(内申点)のバランス、学年間の比重、不登校の子どもの取り扱いなどについて議論が必要ではないか？

答(教育長) 県教育委員会では入試制度のあり方について、高校と中学校の関係者でつくる連絡協議会を毎年開き協議してきている。今後、不登校経験者を含めたすべての生徒が安心して進路を選択できるように丁寧に議論を進めたい。

問 調査書(内申書)に学校外の活動(クラブチームなど)が評価されない例があるが現状はどうか？

答(教育長) 高校と中学校の関係者でつくる連絡協議会で調査書の記載事項を確認して実施要領で記入内容の例を示した上で、中学校に対する説明会で取り扱いを周知している。部活動以外の各種コンクール、校外活動やボランティア活動など顕著なものを記入すると明記している。部活動の地域移行が進むことを踏まえ、「部活動等」としているのか？

問 農業の諸問題について

問 県では、園芸の生産振興について今年度から「1億円産地づくり」を見直し、「稼げる経営体・産地の育成」へと方針の転換を図ったが、その狙いを問う。

答(横田副知事) 1億円産地づくりにより、生産拡大や収益確保につながっていない産地もある。このため、今年度から、1億円産地事業の対象だった戦略品目以外にも地域に合った振興品目への支援もすることとした。

答(知事) 具体的には、収益を上げ産地をけん引するリーディング経営体への技術・販売の重点的支援とその横展開、省力機械やハウスの導入の支援を進めているところである。

問 2005年～2020年にかけての農地あたりの成長率について、富山県は全国最下位との結果が出た。危機感をもって取り組む必要があると考えるが、認識と今後の方針を問う。

答(知事)

主食用米からの転換の観点から、まず、植付け・収穫作業等の機械化体系が確立し、需要が見込まれるたまねぎ、にんじん、キャベツ、さといもを重点品目にする。排水対策や大区画化など、ほ場の改善を進め、水田を活用しての作付拡大も図る。園芸を核とした高収益農業にチャレンジする生産者を積極的に支援していく。

問 近年、集中豪雨が相次いでおり、改

めて、庄川と和田川との合流点改善事業の早期着手に向けて、国に強く働きかけるべきと考えるが所見を問う。

答(土木部長)

洪水時に庄川の水位が高くなると、その影響を受けて合流する和田川の水位も上昇するバックウォーター現象が発生し、結果として、和田川の堤防高等が不足し、氾濫が生じる可能性がある。国では、複数の案による処理方式の検討が続けられている。重要な事業であり、早期着手に向け取り組む。

問 富山湾の活用について

問 海王丸パークや富山新港東埋立地における民間活力の導入などを通じて、海王丸パーク開園30周年、新湊大橋開通10周年を節目に、射水市ベイエリアの魅力向上に取り組む必要がある。

答(土木部長)

射水市ベイエリアの魅力向上には民間活力を取り入れていくことが有効である。射水市から、海王丸パークについて、民間事業者がイベントなどで利用しやすい環境整備や民間活力の導入に関して勉強会への参加の打診があり、県としても趣旨に賛同し、参加協力する旨返答した。

問 夏季は、夏休みや帰省などにより魚への需要が高まるにも関わらず、例年、漁獲量が大幅に落ち込み、飲食店

総合教育会議(知事)のもとに設置すべき。

答(知事)

教育委員会に新たに検討会議をつくり、県立高校のあり方や高校再編に関する学校規模や基準などを検討する。私は、この会議の場で、私立高校の状況も踏まえた議論を進めてもらいたいと考えている。



質問を終えて...

質問の内容は、翌日の朝刊でも大きく取り上げられました。新田知事の答弁は、曖昧な部分もありましたが、知事が議会の場で「高校教育改革に合わせ、入学者選抜制度のあり方について検討が必要」と発言した意味は重いと思います。教育委員会においては、知事の発言を受け止めて、新年度立ち上がる、高校再編の検討会議の場において、一つのテーマにしてもらいたいと思います。

問 子どものウェルビーイング(幸福度)の向上について



問 富山県の県立高校入試制度の課題についてどのような議論がされているのか？